

第1回我孫子市まち・ひと・しごと創生有識者会議 議事要旨

(1)会議名称	第1回我孫子市まち・ひと・しごと創生有識者会議							
(2)開催日時	平成27年7月31日 9:30~12:15							
(3)開催場所	議会棟第1委員会室							
(4)出席者	青木副市長							
	委員							
	出	山内 智	出	熊田 雅弘	出	大炊三枝子	出	川口 伸一
	出	林 健一	出	門脇伊知郎	出	永嶋久美子	出	山岸 由紀子
	出	坂巻 弘一	出	布施 高広				
	事務局							
芹澤企画財政部長 大畑企画財政部次長兼企画課長 木下企画課主幹 佐野企画課主査長 小嶋企画課主任 杉森企画課主任								
(5)議題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 副市長あいさつ 2. 委員自己紹介 3. 事務局職員紹介 4. 我孫子市まち・ひと・しごと創生有識者会議の役割について 5. 委員長、副委員長の互選について 6. 傍聴要領の決定について 7. 我孫子市まち・ひと・しごと創生総合戦略について 8. 我孫子市の人口の見通しについて 9. 地方創生に関する意見交換 10. 今後のスケジュールについて 							
(6)公開・非公開	公開							
(7)傍聴人	1人							

(8)会議の内容

- 1 副市長あいさつ
- 2 委員自己紹介
- 3 事務局職員紹介
- 4 我孫子市まち・ひと・しごと創生有識者会議の役割について
事務局より、要綱に基づいて説明があった。

意見等

- 意見、質問特になし。

5 委員長、副委員長の互選について

委員長 林委員、副委員長 熊田委員に決定した。

意見等

- 意見、質問特になし。

6 傍聴要領の決定について

事務局より、傍聴要領案について説明があった。

傍聴要領の通り決定した。

意見等

- 意見、質問特になし。

7 我孫子市まち・ひと・しごと創生総合戦略について

事務局より、我孫子市まち・ひと・しごと創生総合戦略について説明があった。

意見等

- 千葉県人口ビジョンについて、7月22日に中間案が公表され、8月末には最終案を決定し、9月に公表される見通しである。(布施委員)
- 他市の動向としては、松戸市・野田市・流山市(自前)は年度末の策定を予定、柏市・鎌ヶ谷市は年内の策定を予定している。(布施委員)

8 我孫子市の人口見通しについて

事務局より、我孫子市第三次基本計画の人口の見通しについて説明があった。

意見等	補足回答
■ 我孫子市も都会だと思うが、なぜ都内に人口が流出しているのか。(林委員長)	■ 交通が不便な成田線沿線からの流出が多いことが考えられる。(杉森主任)
■ 転入・転出について、地区別や年齢別にクロス集計しているか。(山岸委員)	■ 次回提供する。20～30代は都内へ転出している。唯一、茨城県からは転入超過となっており、転入のターゲットとなると考えられる。(杉森主任)
■ 松戸市・市川市は転入超過になっているが、その原因が知りたい。(山岸委員)	■ 松戸市は30～40代が転入超過になっている。市川市は母数が少ないこともあり、回答は持ち合わせていない。(杉森主任)

9 地方創生に関する意見交換

意見
<p>(山岸委員)</p> <ul style="list-style-type: none">■ 子育て世代に選ばれることが重要だと思う。■ 柏市への転出が多いが、柏市は我孫子市と何が違うのか考える必要がある。■ 住宅取得支援事業の申込状況や補助の実績が知りたい。⇒次回有識者会議にて提供する。
<p>(山内委員)</p> <ul style="list-style-type: none">■ 基本目標に「安定した雇用の創出」とあるが、市内に敷地がなく、企業誘致は困難。■ 市内にどれだけの求人があるかを知ることが必要。このままでは柏や松戸に若者が流出。■ 商業系として、市内にいる 2,200 人の外国人のニーズに対応していかなければならない。
<p>(布施委員)</p> <ul style="list-style-type: none">■ 「若い世代に選ばれる」という表現だと少し高齢者に冷たい気がする。高齢者も含めてどの世代からも選ばれる、といった表現に変えてはどうか。■ 市の強みを出すことが重要である。常磐線の始発駅があるというのはかなりの強み。■ 人口減少は避けられないことなので、地域連携の視点も十分に検討すべきである。
<p>(門脇委員)</p> <ul style="list-style-type: none">■ 子どもは一度出ていく時期がある。その子どもが戻りたいと思うかが重要である。■ まちの魅力・ブランド力で住みたいと思わせることが人口の転入につながる。■ 行政は対外的な PR が得意でないため、戦略とパートナーを見極める必要がある。
<p>(永嶋委員)</p> <ul style="list-style-type: none">■ 学生は都心を志向する傾向にあり、大学の立地も近年は都心に戻りつつある。■ 地方出身者は都心が無理なら千葉という需要もあるので、大学としても留めたい。■ 商品の共同開発でも経験したように、小さな魅力のアピールが重要だと思う。
<p>(坂巻委員)</p> <ul style="list-style-type: none">■ 我孫子市の職員全員を市内に住ませるなど、市内在住を採用条件とするのはどうか。■ 市内循環バスや、天王台・青山台にバスのハブステーションの設置を検討してはどうか。■ スポーツが盛んなので、スポーツ健康宣言をして PR するのはどうか。陸上競技場などの施設整備、リタイアしたスポーツ選手の指導者としての働く場の整備もできればよい。■ 子育て支援商品券の発行など、子育て世代が柏市に流出している状況に対処すべき。■ 湖北台団地の高齢化が顕著なので、UR と協力して若者を呼び込むことはできないか。
<p>(川口委員)</p> <ul style="list-style-type: none">■ 都心に近く、柏市などと比べて地価が安いことをアピールして、転入を促すのはどうか。■ 企業が増えなければ雇用が生まれず、人口は増えない。■ さらに踏み込んだ子育て支援をやるのもよい。■ 企業誘致においては、市独自の条例や規制が業者には厳しいので、検討すべきだと思う。■ 卸売業・飲食業なども積極的に誘致すれば、雇用の面で相当の効果があると考えられる。

<p>(大炊委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 都心から転入した人は、我孫子市は緑が多いと評価してくれるが、その緑地保全を担っている農業従事者に後継者がいないことが問題である。 ■ 直売所にしても競争が激しくなっており、6次産業化にも挑戦していく必要がある。 ■ 産学連携は進めていけばいいと思う。 ■ 若者の就農が難しければ、リタイアした方々に農業をしてもらおうことも考えられる。
<p>(熊田副委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ どの基本目標も同じように目指していくことは難しい。何を軸にするかが重要である。 ■ 県の戦略骨子「働きたいがかなうまちづくり」は「働きたいがかなう会社づくり」と読むこともできる。 ■ 働きたいと思わせることが重要ではないか。例えば、高齢者の活用の環境を整えて、若者と交流させる機会をつくれれば、社会人教育ができる。 ■ お父さんが早く帰ってきて子どもとふれあえる環境づくりを目指すべきである。
<p>(林委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 今回作る総合戦略は、総花的なものはないのではないか。新総合計画とも整合のとれた、重点的な行動計画のようなものにしていけばいいと思う。 ■ 人口ビジョンについては、地区別といったような細かい単位でみる必要がある。 ■ 4つの柱について議論する際も、地区別の地域特性に合わせた戦略ができるとよい。

10 今後のスケジュールについて

事務局より、今後のスケジュールについて説明があった。

意見
<ul style="list-style-type: none"> ■意見、質問特になし。